

参画と協働のまちづくり

ガイドライン 概要版

みんなですすめるまちづくりの道しるべ



令和7年3月
西脇市

● 参画と協働のまちづくりガイドラインとは？

市民がまちづくりや市政への参画をより一層進めていくため、市民と行政がともに共有する指針です。「参画と協働」の位置付けや定義、具体的な手法などをまとめ、示すことにより、様々な事業を実施する際の参考とし、「参画と協働のまちづくり」が円滑に進むことを狙っています。

どうして
「参画・協働」
が必要なんだろう??



● まちづくりを取り巻く状況

少子高齢化・人口減少

令和32(2050)年の西脇市では、65歳以上の人口が15歳～64歳の人口を超え、社会構造が今まで以上に変わることが予測されています。

地域コミュニティの機能低下

地域の連帯意識の希薄化などにより、子ども会がなくなった自治会もあり、地域コミュニティの機能が低下してきているといわれています。

市民活動の活性化

SNSでの情報発信などにより、市民活動が身近に感じられ、活動の活発化や新たなつながりが生まれるようになりました。

ライフスタイル・価値観の多様化

就業期間の伸長や女性の社会進出の増加など、社会環境が大きく変化し、一人ひとりのライフスタイル・価値観が多様化しています。

このような社会環境の中、誰もが生涯いきいきと暮らすためには、一人ひとりが個性や能力を発揮し、参画・協働できる社会を目指す必要があります。

● 参画とは…

まちづくりに主体的に関わり行動することです。

参画の主な手法

■ 市民意見提出手続（パブリック・コメント）

あらかじめ公表された市の計画などに対し、市民が自身の意見や考えを提出することで、市がその意見などに対する考え方を公表するとともに、必要に応じて原案の修正を行う手法

■ 審議会・協議会・検討委員会など

学識経験者や公募により選出された市民などで構成される委員が、一定期間継続して調査や審議、検討などを行う手法

■ ワークショップ

様々な立場の人々が参加し、自由に意見を出し合いながら議論を重ねて共通認識の形成を図り、意見や提案をまとめ上げていく手法



● 協働とは…

みんなで目的を共有し協力してすすめることです。

協働の主な手法

■ 補助

それぞれの主体が実施する公共性が高い事業などについて、課題や目的を共有したうえで、市や事業者などが補助金などを交付する手法

■ 共催

イベントなどの実施に当たり、異なる主体が共に主催者となって事業を行う手法

皆さんの普段の活動こそが、
「参画・協働」です。

皆さんの取組をホームページに掲載していますので、是非ご覧ください！



各団体の活動紹介

● 参画と協働のまちづくりを進める基本的な方向

まずは自分のことから、まちづくりに取り組みましょう。

1

みんなで取り組む

一人ひとりが進んで参加できるように、まちづくりへの意識を高めます。

2

みんなが知っている

SNSなど様々な方法で、積極的に情報を発信します。

3

みんなを生かしあう

まちづくりを活動場所や資金面から支援し、相談体制を整備します。

4

みんなが関わる

事業の計画や見直しなど各段階への参画や協働を推進します。

5

みんなで助けあう

参画・協働を進めるための体制を整えます。

● ガイドラインの推進に向けて

協働を進めていくには、それぞれの担い手が役割を認識することが大切です。

市民

- ・住民が参加しやすい組織づくりに努めましょう。
- ・地域課題の解決に向け、みんなで話し合い、活動しましょう。

地域 コミュニティ

- ・市民一人ひとりが地域に関心を持ちましょう。
- ・自分の能力や知識をまちづくりに生かしましょう。

市民活動団体

- ・積極的に情報発信し、活動の輪を広げましょう。
- ・自らの専門性などを生かし、社会課題の解決に取り組みましょう。

事業者

- ・持っている情報や技術をまちづくりに生かしましょう。
- ・従業員がまちづくりに参加しやすい環境をつくりましょう。

市

- ・まちづくりが促進されるよう、助成制度や人的支援、活動拠点の提供を行いましょう。
- ・職員一人ひとりの協働意識を向上させましょう。

